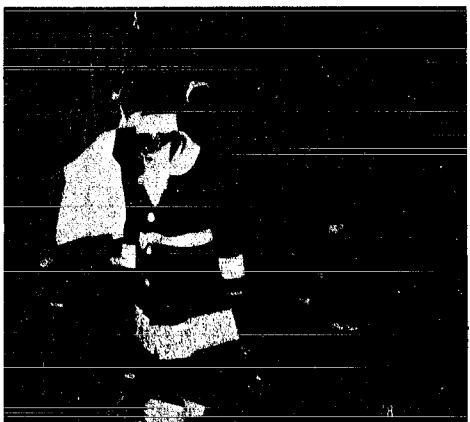


# 「アッ!! サンタさんだ」

## 白根ライオンズクラブが 保育園を訪門

12月20日、ひと足早く保育園にサンタクロースがやってきました。

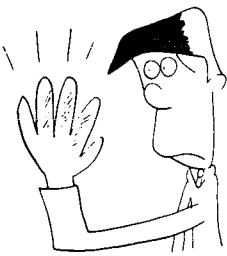
折よく雪が少し降り白くなつた道を、赤いソリ?に乗ってやってきた白根ライオンズクラブのサンタさん。ジングルベルのメロディーが流れる中で、1人1人キーキーのプレゼントを頂いて、園児は大よろこび、皆さんで歌をうたつたりして、サンタさんと楽しいひとときを過ごしました。



おつきあいが出来るようになって私にはとても楽しみなんです。ただ一人担当地域が広く推進活動がゆき届かなくていつも申し訳なく感じているのですが、各自仕事を増やしているわけですし、例えば委員の数を増やすとか、今後の課題点だと思います。

先日、新潟市市民病院の小児科長の小田先生のお話をお聞きしました。私達は乳幼児の死亡というところから頭を浮ぶのはいろんな病気のことで、実は子どもの命をうばう大敵は何と不慮の事故だそうなんです。乳児では窒息。これは誤って物を飲み、布団で呼吸が出来なくなつて、さらには母親の乳房で鼻を閉がれて、とつまり母親の不注意による事故ばかりなんです。私達母親にとつて本当に信じたくないような話ですね。そして自由に走りまわる幼児期になると溺死と自動車事故だそうなんです。季節になると新聞に子どもの水の事故が載らない日はないくらいです。こうした悲惨な事故を防ぐには一人の母親の注意ばかりでなく、母親同志が連帯感を持ち、地域ぐるみで子ども達を守っていかねばならないと痛感してまいりました。またまた母乳のはなし！最近母乳を見直そうという運動が盛り上つております。お母様方は保健婦さん助産婦さんが常に言

しもやけは、皮膚の深部にある動脈と静脈の連絡部分(皮膚糸球といふ)の機能障害によって起こると考えられています。この動脈と静脈の連絡部分は、手や足の指の関節など、小さな関節の背面とか、耳タブのような体の末梢部分にだけあって、しもやけもここに生じやすいのです。しもやけには、樽柿(たるがき)型と多型紅斑(たけいこうはん)型があります。樽柿型は文字どおりたるがきのように手足がはれてくるもので、ともに多く、多型紅斑型は手足などに赤い斑点や



小さなふくらみができるもので青年女子に多く見られます。いずれもかゆみが強くとどいたときは疼痛もあり、くずれて潰瘍をつくることあり、予防の方法としては、しもやけの起こりやすい手足の指の関節部分や耳たぶ、その周辺を、軟膏をすり込みながら、五十分ほどよくマッサージすること。また手足をまず冷水につけ、つぎに温水につける「冷温交代浴」を数回繰り返すことも効果があります。水仕事などでぬれたあとにはよく水分をふきとることはもちろん、きついクツ、クツ下、ガーターや固いイスなどは血行を悪くするので避けた方がよいでしょう。治療の方法としては、血管の緊張を高めるくすり、つまりビタミンEの内服が効果的です。ただこれの部分は抗生剤軟膏を布にのばして貼り、赤くはれただけのところはシモヤケ軟膏をよくすり込んでください。

### 健康づくり(4)

#### しもやけ

小さなふくらみができるもので青年女子に多く見られます。

いずれもかゆみが強くとどいたときは疼痛もあり、くずれて潰瘍をつくることあり、予防の方法としては、しもやけの起こりやすい手足の指の関節部分や耳たぶ、その周辺を、軟膏をすり込みながら、五十分ほどよくマッサージすること。また手足をまず冷水につけ、つぎに温水につける「冷温交代浴」を数回繰り返すことも効果があります。

### 歳時記

## 今年(ひつじ)年

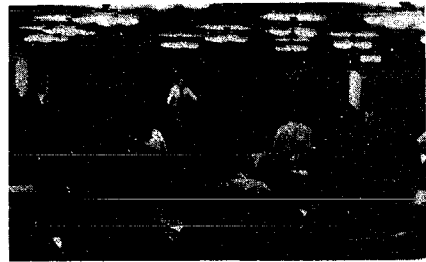
ことしのえと(干支)は、ひつじです。えとは昔、中国で十干十二支を組み合わせ六十の周期で日々年月を数えたもので、十二支に動物をあてはめたのは後代になってからのことといわれています。いま、日本では旧暦が使われませんが、その年のペットネームのようなかたちで動物のえとだけが親しまれています。とくにコマシヤルベスで、えとが盛んに愛用され、去年の秋から暮れにかけては、ひつじが撮影モデルとしてプロダクションからひつじがどろどろと押しかけ、ひつじたちが「メーワクダ」と鳴いたかどうかは知りませんが……。



ところで、せっかくのひつじ年も、羊毛業界にとつては、もうひとつきえませんが、足かけ三年越しの不況カルテルが続く、大幅な操業縮減のままひつじ年を迎えました。このひつじ年、実は日本の羊毛工業百年の記念すべき年にあたります。というの、明治も、明治十二年に陸軍が、東京の千住に毛織物の製造所を設け、軍服を作ったのが始まりとか。ヒツジ年の正月、ゾウ煮はやめてジンギスカンで祝いますか。その方が、ヤングに受けそうです。……ネ。

## 県消費生活センターから

- (1) 新潟県消費生活センターでは、次のようなことをしています。
- 1. 各種講座の開催
- (1) ぐらしの一日教室(毎月開催、一般消費者)
- (2) 商品研究会(10市町村対象、一般消費者)
- (3) 中学生消費生活講座(地域別三ヶ所)
- (4) 移動消費生活講座(三市対象、一般消費者)
- (5) 地域指導者養成講座(地域別三ヶ所)
- (6) 市町村消費生活講座(15市町村対象、一般消費者)
- (7) 消費生活セミナー(地域別三ヶ所、会員及び一般消費者)
- (8) 通信制消費生活講座(一般消費者)
- (9) 家庭科担当教員消費生活講座(小中高等学校教員対象)
- (10) 移動消費生活センター(県内60ヶ所、一般消費者、ゆきつき)
- 2. 各種相談業務の実施
- 3. 商品テストの実施
- 4. 苦情相談等に基く商品テスト
- 5. 試買テスト
- (1) センターの概要
- (2) センターシリーズ
- (3) センターのメモ



消費生活講座スクーリング風景

「良い子を生き育てる」  
「母性は健康で豊かな生涯を」  
何とも大きな文句ですが、これが母子保健法の目的なのです。では、実際に私達の月満村ではどういう事かという、各種予防接種、母親学級、乳幼児検診、育児学級などの事業として行われているのです。これらの事業は各家庭に浸透してはじめて効果があり、それは地域に密着した活動が必要であるというところで、母子保健推進委員会が生まれました。役場とお母様方を結ぶパイプ役ですね、多勢の方が事業に参加されるよううさそいしたり、検診業務がスムーズに実施されるために会場でお手伝いしたりします。こうした仕事を通して地域のお母様方と親しくりやすくお話ししていただきたい。先生方との意見交換では皆さん大変活発な発言で、ただただ感心させられました。友達もでき、食事をしながらの楽しいおしゃべり、ショッピングと苦しい勉強のなかでも楽しいひとときでした。今では、つい昨日の事のように長い人生のなかで今回学んだことを大事に生かしながら、また機会があったら色んなことを勉強して、頭の体操をしたいと思っております。

### 母子保健推進委員だより

#### 月満下 近藤 勝子

おつきあいが出来るようになって私にはとても楽しみなんです。ただ一人担当地域が広く推進活動がゆき届かなくていつも申し訳なく感じているのですが、各自仕事を増やしているわけですし、例えば委員の数を増やすとか、今後の課題点だと思います。先日、新潟市市民病院の小児科長の小田先生のお話をお聞きしました。私達は乳幼児の死亡というところから頭を浮ぶのはいろんな病気のことで、実は子どもの命をうばう大敵は何と不慮の事故だそうなんです。乳児では窒息。これは誤って物を飲み、布団で呼吸が出来なくなつて、さらには母親の乳房で鼻を閉がれて、とつまり母親の不注意による事故ばかりなんです。私達母親にとつて本当に信じたくないような話ですね。そして自由に走りまわる幼児期になると溺死と自動車事故だそうなんです。季節になると新聞に子どもの水の事故が載らない日はないくらいです。こうした悲惨な事故を防ぐには一人の母親の注意ばかりでなく、母親同志が連帯感を持ち、地域ぐるみで子ども達を守っていかねばならないと痛感してまいりました。またまた母乳のはなし！最近母乳を見直そうという運動が盛り上つております。お母様方は保健婦さん助産婦さんが常に言



自分のつくった離乳食を

たべさせているとかわいくて……。